

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第62号

ななえ古写真物語 VOL. 62

沼の家の話

「初代堀口亀吉という人物」

大正時代？

大沼地区



七飯町のお土産の代名詞といっても過言ではない「大沼だんご」は歴史が古く、その始まりは明治36年頃といわれています。現在、幾つかの店舗がだんごを販売していますが（いずれもおいしいですよ）、よくみかける「沼の家」のものは、大沼に函樽鉄道が開通したことを受け、明治38年に初代堀口亀吉が、観光土産品として販売したことに由来しています。

堀口亀吉は、上磯町（現 北斗市）に生まれ、上磯～函館間の乗合馬車業を営んでいたが、明治36年に大沼に移住。当時から文化人との交流があり俳句を嗜むなど、感性豊かな人物だったようです。このことは、現在使われているパッケージに、俳壇の重鎮だった花本聴秋の「花のみか 紅葉にも此 だんごか哉」という句が印刷されていることや、だんごの折を大沼湖と小沼湖を表わすように大小に区切り、そこに詰められただんご自体が、湖に浮かぶ島々をみているという、遊び心にも似た工夫にも見て取れます。

さらには、沼の家を営みながら、上磯からエビを持ち込んで、大沼湖へ放していたといわれることから、大沼の水産業の発展に寄与した一人という一面も持ち合わせています。

そんな亀吉が創業した沼の家の様子を写したものが上の写真で、風情ある平屋の建物とだんごの旗、ほかにもよく見ると店舗の前に、白馬が置かれているのがうかがえます。これは、どうやら本物ではなく、木馬だったようで、どのような理由で、この木馬が置かれたのかわかりませんが、こういった一風変わった演出も、もしかしたら、亀吉独自の感性から来るものなのかもしれません。

ちなみに明治36年に発行された大沼初の観光案内書でもある『北海道の一大楽園「大沼案内記」』には、当時この辺りは、茶店一つないところでは騒人も雅客も閉口なので、早く客を待つ設備をなすべきだ・・・というような内容が記されています。このことは、亀吉が大沼に移住した当初は、茶店もない場所だったことを記していると同時に、その後開業した沼の家が、大沼における「休み処」の先駆的役割を果たしたとも考えられ、亀吉が抱いていた大沼公園発展への情熱を感じます。

そんな歴史に思いを馳せながら、現在も変わらぬ大沼のだんごの味を楽しんで頂ければ・・・と、ちょっと甘い誘惑を投げかけてみたのですが、いかがでしょうか？

3月の予定

16日 夜の博物館後期講座、第2回は「ななえの水」と題して、七飯町の水に関わる自然や歴史の話をしました。

七飯町を代表する飲料水「夢水氣」を飲みながら、ダム役割をしている横津連山の自然や明治期の水車場や水力発電の歴史を学芸員がスライドで解説し、さらには、昔七飯町で使われていた木製の水道管を実際に触れるなど、終始、和やかな雰囲気学びました。



講座の様子

1	金
2	土 パネル展OPEN予定
3	日 ふあみりーていみゆーじあむ
4	月
5	火
6	水 夜の博物館
7	木
8	金
9	土
10	日 冬の探鳥会
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水 春分の日
21	木 パネル展CLOSE ▼
22	金
23	土 ジュニア探検クラブ
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

※3月の休館日はありません。



カッターに苦労しています！

26日 ジュニア探検クラブでは、「冬のあそび」と題し、凧とスノーランタン作りに挑戦しました。

最近、凧上げをしている様子を見かけなくなりましたが、今回はビニールを使った簡単な凧づくりです。まず、学芸員が伝統的な和凧を紹介。凧のしくみなどを説明して、実際に自分たちで作ります。カッターの扱いに苦労しながらも、ビニールを切り、絵を描いて、竹ひごと糸を取り付けて完成！午後から、実際に凧を上げたのですが、意外によくあがりましたよ。その後は、空き缶を使ったスノーランタンづくり。寒い中、頑張りましたね。

この形の凧をつくれます。



走れ～。止まるな～！！

冬の仕事。そして、ぼやき…。

除雪・・・皆さんも苦労していることかと思えます。当館でも、建物の構造上、軒下への落雪が尋常じゃない量となるので、今年も男スタッフの苦痛な冬の仕事となっています。少しでも、楽しようと除雪機を借りて臨んではいりますが、素人の扱い、そして氷と化した軒下の雪には、なかなか歯が立たないため、思うようにはいきません。慣れるころには春なのかな？



動かない除雪機に四苦八苦！

雛人形を展示中です

ただ今、常設展示室内にひな人形を展示中です。3月3日には片づけますので、その前には是非ご覧ください。



編集後記 ～tawagoto～

この時期になると、夏の思い出を整理することになる。思い出とは、昆虫標本整理のこと・・・。昨年も多くの昆虫たちに出会ったはずなんだが、標本数から考えると、例年よりも圧倒的に少なく、それはイコール、私がフィールドへ出れていなかったことを示すバロメーターにもなっている・・・。

多忙ではあるが、来年度はもう少し自然と向き合える環境を整えなくてはいけないと自戒しているが、組織が認めるのかが問題だ。(やまだひさし)

Pichart ～ピチャリ～
第62号

平成25年2月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp